

## 平成23年度 第2回帯広市健康づくり支援部会議事録

日 時：平成23年10月31日（月）  
第4回帯広市高齢者支援部会・  
健康づくり支援部会終了後  
午後8時～8時40分  
場 所：帯広市役所10階第4会議室

### ●会議次第

1. 開会
2. 会議
  - (1) 平成23年度第1回帯広市健康づくり支援部会議事録（案）の確認
  - (2) 平成22年度保健事業について
  - (3) 「けんこう帯広21」健康づくりに関するアンケート調査結果について
  - (4) その他
3. 閉会

●出席委員： 吉村 典子副部長、相馬 昇委員、高橋 きみ子専門委員、角谷 巍啓専門委員、  
有岡 秀専門委員、高橋セツ子専門委員

### ●議事録

#### ○事務局

皆様、こんばんは。

ただいまから、平成23年度第2回健康づくり支援部会を始めさせていただきます。

本日の委員の出席は健康づくり支援部会、委員8名中、6名のご出席をいただいております、出席人数が委員の過半数を超えていますことから、本日の部会は成立しております。

なお、井出部長におきましては、本日、都合により欠席の連絡をいただいておりますので、これよりの議事進行につきましては、吉村副部長にお願いいたします。

#### ○副部長

それでは、会議に入らせていただきます。

まず、最初に、前回会議の議事録の確認についてを、議題といたします。

この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。

議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いいたします。

[質疑応答なし]

#### ○副部長

別になければ、会議録は了承されたものといたします。よろしいでしょうか。

[委員同意]

#### ○副部長

それでは、次に、平成22年度保健事業についてを議題といたします。

事務局から、ご説明願います。

## ○事務局

それでは、平成22年度保健事業についてご説明させていただきます。

まず、はじめに資料のご確認をお願いいたします。事前に郵送しております「けんこう帯広21」健康づくりに関するアンケート報告書(案)、本日配布いたしております資料1から4、お手元にありますでしょうか。事前に郵送している報告書に差し替えが3枚(目次、85・86ページ、113・114ページ)あります。

それでは、平成22年度保健事業についてご説明いたします。資料1をご覧ください。

まず、1.保健福祉センターの利用状況について(1)事業等の利用状況であります。表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移をご覧ください。3カ年の推移を見ますと、利用者は増加傾向にあります。(2)健康相談の利用状況では、合計数の年次推移を見ますと、こちらも増加傾向にあります。

次に、2.感染症などの予防をご覧ください。(1)予防接種の実施状況では、平成20年度と平成21年度を比較しますと、すべての予防接種で接種者数が減少しています。これは、平成21年度に流行した新型インフルエンザの影響があったものと思われま。

また、ポリオの接種者数が年々減少しているのは、生ワクチンの副反応や、不活化ワクチンへの移行について報道されていることが多少影響しているものと思われま。

(2)結核検診の実施状況については表のとおりです。

次に、2ページ目をご覧ください。(3)インフルエンザ予防接種の状況ですが、平成21年10月より新型インフルエンザ予防接種が開始され、当初はワクチンの不足により優先接種対象者を国で決め、順次、接種を実施することとし、低所得者や生活保護受給者が無料で接種できるよう補助事業を実施しました。帯広市では、11月に対象者に申請書を個別に郵送しております。当初は新型単独のワクチンでしたが、22年度は新型インフルエンザワクチンと季節性の混合ワクチンが開発され、通常の季節性ワクチンの補助事業を実施している中3、高3と65歳以上の高齢者に加え、低所得者に対する補助事業を実施しております。実績は記載のとおりとなっております。

次に、(4)エキノコックス症検診の実施状況については、表をご覧ください。

3.生活習慣病の予防では、(1)出前健康教育の実績は、増加傾向にあります。特に、企業やサークルからの依頼が伸びています。

(2)健康づくり講座では9つの講座や教室を行っており、実績は表のとおりです。

3ページをご覧ください。健康相談、訪問指導、トレーニング事業につきましても、表のとおりとなっておりますのでご覧ください。

次に、(6)検診の実施状況であります。骨粗鬆症検診以外では、いずれの検診におきましても受診者数は年々増加しています。

最後に、4ページ、救急医療体制に関する実施状況であります。帯広市では、夜間・休日等における医療不安の解消と急病者の発生に対処するため、夜間急病センター運営事業や医療機関の協力を得て、在宅当番医運営事業や二次救急医療体制の確立をしております。

保健事業の説明は以上であります。続きまして、資料2、平成22年度健康推進課決算の概要について、大越副館長より説明いたします。

## ○事務局

それでは、私の方から、平成22年度健康推進課決算の概要について、ご説明させていただきます。

まず、予算の執行に関しましては、目的別に、保健衛生総務費、保健福祉センター費、予防費、夜間

急病診療費の4種類に区分してあります。最終予算額につきましては、当初予算額及び9月にインフルエンザ接種事業費、並びに12月に子宮頸がん予防ワクチン接種費用助成事業費などの補正を行いまして、総額1,113,549,000円、決算額は747,235,722円、繰越額283,850,000円となっております。予算対比では、82,463,278円の不用額となったところでございます。このマイナスの大きな要因としましては、予防費のうち、がん検診の受診者の減に伴います委託料の減、感染症予防費のインフルエンザ接種事業費のうち、特に平成21年度から繰り越しをしました新型インフルエンザ予防接種の執行において、想定していた接種者数が大きく減したことに伴います委託料及び接種補助金の減などがあります。雑ぱくではありますが、概要ということでありませう。

説明は以上です。

○副部会長

それでは、ただいま、事務局からご説明いただきましたが、何かご質問などありませんでしょうか。

○委員

エキノコックス症検診についてですが、今までに感染者は出ているのでしょうか。

○事務局

ここ3年の資料ですが感染者は出ておりませう。

○委員

やはり、検査は必要でしょうか。

○事務局

検診は必要ということで行っていますが、検診の受診者は、登山者、畜大で動物と接する機会の多い先生たちなどが多い状況です。受診数にかかわらず、検診の周知をし、不安のある方は受診をしていただきたいと考えております。

○委員

犬など動物を飼っていると、自分で予防しないといけないところがある。私自身も検診を受けたことがあり、帯広で発症した人はいるのか気になっていた。ありがとうございました。

○副部会長

その他に何かありますか。特になければ、次に3番目「けんこう帯広21」健康づくりに関するアンケート調査結果(案)について、ご説明をお願いいたします。

○事務局

それでは、私から、「けんこう帯広21」健康づくりに関するアンケート調査結果(案)について説明させていただきます。資料3をご覧ください。

1 調査目的については、以前お話した内容となりますので、省略をさせていただきます。

2 調査の方法等について、一部変更があります。(1)の調査対象が当初、6歳から85歳までとしておりましたが、データ抽出時に不具合があり、86歳以上の方も抽出されてしまいました。従いまして、6歳以上としております。調査項目は、アンケート調査が必要な8領域43項目としております。

3 回収結果については、38.4%の回収率となりました。あまり高くない回収結果となりましたが、データとしては、十分に活用できる結果となっております。詳細は表のとおりとなっております。

それでは、4 調査結果の概要について説明させていただきます。

(1) 健康感について、12ページになります。

健康感は、「あまり健康ではない」割合が、加齢とともに高くなっております。

病気の有無は、何らかの病気がある割合が、加齢とともに高くなっております。50歳代以降で「高

血圧」の割合が高くなっております。

傾向を中心にお話させていただきます。

健康のために心がけていることは、40歳代までは「睡眠」、50歳代以降で「食生活」の割合が高くなっております。

次に(2)栄養・食生活について、16ページになります。

BMIは、「肥満」の割合が40・50歳代で高く、男女別では男性が高くなっております。「やせ」の割合は、女性が高くなっております。

適正体重の認知は、「知らない」の割合が50歳代まで若い人ほど高くなっております。

外食は、20歳代で最も高く、加齢とともに外食しなくなっております。

食事のバランスは、「問題がある」の割合は30・40歳代で高くなっております。

食事の量は、「特に気にしない」の割合が若い年代ほど高くなっております。

食事時間は、「3回の食事がとれないことが多い」の割合が20歳代で最も高く、加齢とともに低くなっております。

2ページをご覧ください。

今後の食事のあり方は、「今よりよくしたい」が12歳から40歳代で5割以上となっております。

つづきまして、(3)身体活動・運動について、25ページからとなっております。

身体活動・運動の頻度は、「ほとんどしていない」の割合が30・40歳代で高く、運動の内容は、すべての年代で、「散歩」と「軽い体操」の割合が高く、20・30歳代では「ジョギング」、20～50歳代では「筋トレ」、60歳以上では「庭いじり」と「パークゴルフ」の割合が高くなっております。

夏と冬の運動量の差は、「差がない」の割合は、運動の頻度が高い人ほど多くなっております。

冬の運動の内容は、すべての年代で「除雪」と「軽い体操」、「散歩」の割合が高く、加齢とともに活動や運動の種類が減少しております。

運動をしない理由は、「時間に余裕がないから」の割合は20～60歳代で高く、「病気や身体上の理由」の割合は70歳以上で高くなっております。

自家用車の保有は、保有する割合は20～60歳代で9割を超えております。

歩かず自家用車を利用する時間は、「5分以内」でも利用する割合は20歳代と40歳代で高くなっております。

外出頻度(60歳以上)は、「自分から積極的に外出する」の割合は60～74歳で高くなり、75歳からは著しく低くなっております。

団体への参加(60歳以上)は「参加したことがある」の割合は70～74歳で高く、男女別では男性が高くなっております。

(4)歯の健康について、71ページからになります。

歯の本数は「19本以下」の割合は50歳代から著しく高くなり、加齢とともにさらに高くなっております。

歯の健診については、「受けたことがない」は20歳代と80歳以上で5割以上となっております。

続いて(5)休養・睡眠について、76ページからになります。

休養の意味について、「知っている」の割合が加齢とともに高くなっております。

睡眠時間については、全年代では6時間以上が8割以上となる一方、「6時間未満」の割合は40歳代で高くなっております。

睡眠による休養については、「あまりとれていない」の割合は40歳代で最も高く、次いで30歳代、

20歳代の順で高くなっております。

睡眠補助品の使用については、「毎日使う」の割合は40～70歳代で高くなっております。

続きまして、(6) ストレスについて、80ページからになります。

ストレスの有無については、ストレスのある割合は、20・30歳代で高くなっております。

ストレスを感じる内容は、男女の全体では「仕事」の割合が高く、男性では「職場の人間関係」、女性では「家族関係」と「自分や家族の病気」の割合が高くなっております。

ストレスの発散の有無については、「ストレスを発散できない」の割合は70歳代以上で高くなっております。

ストレスの発散方法については、男女の全体では、「家族・友人とおしゃべり」と「睡眠」の割合が高く、男性では「スポーツ」と「飲酒」、女性では「食事」と「買い物」の割合が高くなっております。

3ページをご覧ください。

悩みの相談場所については、「よく知らない」と「知らない」を合わせると5割を超え、特に50歳代以上で高くなっております。

続きまして、(7) うつについて、85ページからになります。

「知っている」と「だいたい知っている」を合わせると、約8割となっております。未成年者を除き、大きな年代差はみられません。

つづいて(8) たばこについて、86ページからになります。

喫煙習慣については、「吸っている」の割合は50歳代で最も高く、「以前は吸っていたが、現在は吸っていない」の割合は50・60歳代で高く、男女別では、男性が高くなっております。

たばこの吸い始めについては、未成年時(19歳以下)の吸い始めが、若いほど高く、男女別では、男性が高くなっております。

喫煙が影響する病気の認知については、全ての年代で「肺がん」の割合が最も高く、20・30歳代では、「妊娠に関連した異常」の割合が高くなっております。

続きまして(9) アルコールについて、91ページからになります。

アルコールの摂取と頻度については、「毎日飲む」と「週3回以上飲む」の割合は、50歳代で高く、男女別では、男性が高くなっております。

お酒の種類とアルコール摂取量について、種類については、男女全体では「ビール」の割合が高く、男性では「焼酎」、女性では「ワイン」の割合が高くなっております。

摂取量については、習慣的多量飲酒者(1日60g以上)の割合は、20歳代と60歳代で高く、男女別では、男性が高くなっております。

アルコールについての考えについては、「やめたい」と「量を減らしたい」を合わせた割合は、80歳以上を除くと、年代・男女差はみられませんでした。

続きまして(10) がんについて、98ページからになります。

がん検診につきましては、受診の状況は、表のとおりとなっております。

がん検診を受けない理由については、すべての年代で「必要なときは病院に行くから」の割合が高く、20・30歳代では「検診費用がかかるから」と「まだ検診が必要な年齢ではないと思っているから」、40・50歳代では「時間がないから」の割合が高くなっております。

(11) 健康づくりに関する要望については、113ページからになります。

健康づくりに力を入れるべきことについては、「健康診断」が5割、「健康に関する情報提供」が4割を超え、予防医療や情報提供に対する要望が高くなっております。

4ページにつきましては、アンケート調査で指標の比較を行う項目について、国で行った評価方法

を参考に、A「目標値に達した」から、B「目標値に達していないが改善傾向にある（5%の差以上）」、C「変わらない（5%の差未満）」、D「悪化している（5%の差以上）」、E「比較困難（今回初めて調査した項目）」までの5段階で右の表に示しました。

今回、Aの「目標値に達した」が、3項目12%、Bの「目標値に達していないが改善傾向にある」が、2項目8%、Cの「変わらない」が、13項目52%、Dの「悪化している」が、4項目16%、Eの「比較困難」が、3項目12%となっております。

評価につきましては、12月、2月の部会において、ほかの調査も含め、指標の整理を行い、最終評価の審議をお願いしたいと考えております。

説明は、以上であります。

#### ○副部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございませんか。

#### ○委員

この部会でお話する内容ではないかもしれませんが、介護予防の中で、栄養改善の件数が伸びていない状況と聞いています。高齢者の中には、糖尿を持っていて食事作りに苦労している、高血圧で塩分制限をどうしたらよいか分からないなど、家族がいて病気を理解して食事を作ってくれる場合は良いが、そうでない場合、安易に配食サービスに頼って良いのだろうかと思えます。

配食サービスは、どんな問題を抱えた人がどういう理由で利用しているか、深刻な問題を抱えているのか、ただ高齢となって食事を作ることができないという理由で利用しているのか、実態を知りたい。そこから、栄養改善の件数に結びついていくのではないかと思います。

#### ○事務局

介護予防事業に関しましては、高齢者福祉課所管となっておりますので、詳しくはお答えできませんが、65歳以上の方に対する介護予防事業で実施している栄養改善事業は、特定健診と合わせて実施している生活機能評価の中で、やせの方だけを対象としています。受診者の中では、やせに該当する人が少なく、希望者も少ない状況です。

配食サービスにつきましては、ケアマネージャーが担当の高齢者の自宅を訪問し、状況を把握して、サービスに必要な調査を行い、本人が市に配食サービスの申請を行っているという聞いています。

#### ○副部会長

その他に何かございませんか。

#### ○委員

今回、帯広市民の意識がみえたと思います。10代、20代の若い人は、食べるより、寝ていたい。やっぱり、これは、若いうちから食生活に関する活動をすすめていかなければいけないと感じました。今年、独身の男女を対象に料理教室を開催していますが、1回目の時に、塩分をひかえるよう話すと、参加者から「病気になってからでいいんですね。」と言われ、驚き、病気を予防するために、病気になる前の食事が大切ということ伝えるため、若い人を対象とした料理教室をやった良かったと思えました。これからも若い人への料理教室など大事に行きたいと思えます。

#### ○副部会長

その他にございませんか。

#### ○委員

健康づくりに関していえば、ここにあるデータをもう少し読み込んで、健康づくりに役立つ結果を引き出すことができるのではないかと思います。たとえば、ストレスの有無と心臓病の関わりやタバコと健康度の関わり、運動量と疾病との関わりなど。有効なデータがアンケート結果から出てくると

思います。できれば、一步踏み込んでデータを活用してほしいと思います。

○事務局

今、ご意見をいただきましたが、今回は、調査をした結果のみの集計を皆さんに提示させていただきました。

今後、設問ごとのクロス集計を行うことを予定しておりますので、もう少しお時間をいただきたいと思います。

○委員

その結果は、私たちにも知らせていただけるのでしょうか。

○事務局

提示させていただきます。

○副部長

その他にございませんか。

○委員

まとまった段階で、広報などで市民にも周知されるのですか。

○事務局

どこまでの部分をということは決まってはいませんが、公表していきたいと考えております。

○副部長

その他に、ご質問などはありませんか。もし、なければ、これで質疑を終わらせていただきます。

次に、その他、事務局から何かございますか。

○事務局

それでは、子宮頸がん等ワクチン接種率について、報告させていただきます。資料4をご覧ください。この事業は、今年2月から実施しております、9月末までの集計について結果がでましたので、報告させていただきます。

子宮頸がん予防ワクチンについては、対象年齢は、中学1年生から高校2年生相当の学年になっております。昨年2月については、中学1年生から高校1年生相当の学年でした。今年度は、昨年度の高校1年生については、経過措置として国において9月末までに接種すれば補助対象にするとしていますが、帯広市では独自に、9月末以降についても無料で接種できるよう措置しています。

このワクチンは、半年間で3回接種が必要であるため、9月末までに受ければ、年度内に3回接種できることとなります。

9月末までの接種率は、各学年、表のとおりとなっており、合計では73.9%となっております。

続きまして、ヒブワクチンであります。対象年齢は、生後2ヶ月から4歳までとなっており、各月齢、各年齢の接種率については、表のとおりとなっております。合計では、29.3%の接種率となっております。

続きまして、小児用肺炎球菌ワクチンについてですが、こちらも接種年齢は、ヒブワクチンと同じく生後2ヶ月から4歳までとなっております。接種率は、合計で28.2%となっております。

子宮頸がんワクチンについては、ワクチンの供給量が不足したことにより、3月7日から接種を見合わせ、6月10日から、段階的に接種を再開しております。

○副部長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございませんか。

[質疑応答なし]

○副部会長

その他、事務局から何かございますか。

○事務局

次回の日程について説明させていただきます。次回の健康づくり支援部会の議題は、今回のアンケート調査と、アンケート調査以外の調査資料により評価する指標を含め、領域ごとに分析・評価を行ったものについての審議を予定しております。

日程につきましては、井出部会長と調整させて頂いており、12月19日（月）に開催を予定しておりますが、皆様のご都合はいかがでしょうか。

開催日の10日程前には案内文を郵送させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○副部会長

次回の日程について、皆様のご都合はいかがでしょうか。

[委員 同意]

○副部会長

委員の皆様から何かありましたら、お願いします。

[質疑応答なし]

○副部会長

別になければ、以上をもちまして本日の議題は全て終了いたしましたので、これで閉会といたします。長時間にわたり、大変お疲れさまでした。